

令和4年度こんにゃく原料需給実績

(単位:精粉20kg/袋)

項目	需 要 量 (消費量)	供 給 量					期 末 在 荷 量
		期初在荷量	国内生産量		輸 入 量	供 給 量 合 計	
			生産量	春切り量			
年度(R4.11~R5.10)	注2)①	注2)②	注2)③	注2)④	注2)⑤⑥	注2)⑦	
計算式	a=f-g	b	c	d	e	f=b+c+d+e	g
原料(国内・輸入) 数量実績 (前年度実績)	224,000 253,800	273,100 266,800	233,800 244,100	2,500 2,000	2,500 13,900	511,900 526,800	287,900 273,100
製品 輸入数量実績 (前年度実績)	17,200 18,500	0 0	0 0	0 0	17,200 18,500	17,200 18,500	0 0
合計 (前年度実績)	241,200 272,300	273,100 266,800	233,800 244,100	2,500 2,000	19,700 32,400	529,100 545,400	287,900 273,100
前年比(%)	88.6%	102.4%	95.8%	125.0%	60.8%	97.0%	105.4%

注1)ラウンドしているため加減があわないことがある。

注2)算出方法は以下のとおり。なお、算出方法は各年度に必要な見直しを行い21年度まで遡って再計算しているため過去の発表数値とは連続しない。

①原料需要量は、供給量合計から期末在荷量を差し引いて求めた。

②期初在荷量は、⑦と同様の方法で算出したR3年度の期末在荷量273,100袋とした。

③生産量は、令和4年産生産量(51,900トン)から算出(51,900×1,000×歩留(9.009%)÷20kg)し、233,800袋とした。(I-1、VII-4)

④春切り量は、関係機関からの聞き取り調査を基に2,500袋とした。

⑤原料輸入量は、1次関税枠(22.0トン)及び2次関税枠(28.5トン)の合計輸入量(50.5トン)から算出(50.5×1,000÷20kg)し、2,500袋とした。(VI-3-(3))

⑥製品輸入数量は、輸入量(11,343トン)から、精粉換算(製品倍率33倍)で算出(11,343×1,000÷33÷20kg)し、17,200袋とした。(VI-4-(3))

⑦期末在荷量は、関係機関からの聞き取り調査を基に推計した。(VII-3-(1))